「競争激しい中でチャレンジ」「目標は全試合フル出場」

Jリーグ、社会人チームに内定の６選手が抱負

サッカー部は１月14日に記者会見を開き、Jリーグと社会人のチームに入団が内定した６選手を発表した。中央大学で４年間、サッカーと学業に打ち込んだ選手たちは今春、プロ選手、社会人選手としての一歩を踏み出す。会見で選手たちは学生生活を振り返るとともに、「競争は激しいがチャレンジしたい」「開幕スタメンを狙う」「全試合フル出場したい」などと、抱負と決意を語った。

おそろいのスーツ姿でマスクを着用し、多摩キャンパスＣスクエアの会見場に現れたのは、浦和レッズ加入が内定している大久保智明選手（経済４）、サガン鳥栖に内定した松本大輔選手（経済４）と今掛航貴選手（経済４）、AC長野パルセイロの高窪健人選手（文４）、社会人チーム・南葛ＳＣの飯吉将通（まさみち）選手（商４）の５人。

加納樹里サッカー部部長（文学部教授）、佐藤健監督が同席。東京ヴェルディに内定した深澤大輝選手（経済４）はチーム練習のため欠席し、ビデオでメッセージを寄せた。

質疑応答に臨んだ５人はまず、大学生活で得たことや自分のアピールポイント、今後の目標などを１人ずつ回答した。

▲ Ｊリーグ、社会人チーム加入が内定した大久保智明選手、松本大輔選手、今掛航貴選手、高窪健人選手、飯吉将通選手（写真左から）

レッズのためにプレー

大久保智明選手

（浦和レッズは）クラブ規模も大きく、（チーム内の）競争も激しいですが、チャレンジしたい。スカウトの方も練習や練習試合、公式戦に熱心に足を運んでくださり、レッズのためにプレーしたい気持ちが強まりました。大学４年間で時間の使い方だったり、いろいろな人と関わる中で考え方を深めたりすることができました。プレー面では、自分の武器は何なのか、自分がチームに何ができるのかということを磨き上げられたと思う。ドリブル突破や攻撃でのチャンスメイクが僕の特長です。開幕スタメンを狙い、１年目から中心選手として活躍したい。

競り合いでの強さを武器に

松本大輔選手

サガン鳥栖はもともと好きなチームでした。キャンプに参加させていただき、最後まであきらめないプレー、全力で戦うチーム力をとても感じ、オファーをいただいて入団を決意しました。自分の長所は、守備での一対一やヘディングでの競り合い（の強さ）だと思っています。長所を生かしてチームに貢献していきたい。

運動量の多さ、技術に自信

今掛航貴選手

僕はけがが多くて、どこにも行くところがなくサッカーをやめようともしましたが、（サガン鳥栖から）最後にオファーをいただき迷うことなく決めました。大学で学んだことは“全て”です。運動量の多さと技術があると思うので、そこが長所だと思います。目標は全試合フル出場です。

J2昇格へ、チームに貢献

高窪健人選手

（AC長野パルセイロの）練習に以前に参加したとき、自分のプレースタイルに合うと感じました。オファーをいただき（入団を）決めました。大学では、自分の長所をどう生かすか、どうアピールするかということを学べました。自分の長所はフィジカルの強さと前への推進力。目標はJ2昇格に向けてチームに貢献することです。

サポーターをワクワクさせたい

飯吉将通選手

「キャプテン翼」から生まれたチームの「見ている人をワクワクさせる」というコンセプトに引かれたことと、社会人チームの中でサッカー以外でも社会に出て働くということが将来のプラスになると思い、南葛ＳＣを選びました。関東１部への昇格に向けてチームに貢献できたらと思います。

プレーで夢を与えたい

深澤大輝選手

東京ヴェルディには小学４年生から高校３年生までの９年間お世話になり、僕に夢を与えてくれたクラブです。こんどは夢を与えられるように精いっぱい頑張ります。
（ビデオメッセージから）

「文武不岐」中央大学での経験を生かして活躍を

加納樹里サッカー部部長

Jリーグでは大学を経たルーキーが活躍して話題になっています。大卒でプロ選手になる意味を改めて考えると、文武不岐という言葉に思い当たりました。文と武は分かちがたいもの、相互に補うものという意味です。つまり、大学で学んだことは、セカンドキャリアという選手をやめてからだけではなく、サッカー選手として活躍するピッチの上でも役立つのではないでしょうか。

6人の皆さんも大学で過ごした時間が無駄ではなかったということを今後の人生において証明してほしいと願っています。

個性強く面白い人材 試合で結果を出してほしい

佐藤健サッカー部監督

6人は、能力は非常に高く、攻撃と守備の要となって、1年生、2年生からずっと主力で戦った選手たちです。個性もあり、面白い人材だと思います。この選手たちが、中央大学の名前を背負いながら、しっかりとグラウンドで結果を出す。そういうプロ選手としての本領をみせてほしい。（日本）代表になるような選手がこの中から出てきたらうれしい。

大久保選手はサイド攻撃、今掛選手は両サイドとも（対応）できる。松本選手の空中戦や一対一、フィジカルコンタクトでの強さは間違いなくJ1でできるレベルです。

ずっとヴェルディで育った深澤選手は、精神的にも肉体的にも今年から（公式戦に）出られるくらいの“ヴェルディ魂”を備えている選手。J3の（AC長野パルセイロの）高窪選手はJ2でも通用するくらいフォワードとしての資質がある。GKの飯吉選手は足元のテクニックや基本的なキャッチングなど、どこのプロ（チーム）にも行けたくらい技術レベルは高く、活躍を楽しみにしています。

「貴重な寮生活の経験」「時間の使い方を学ぶ」

会見ではさらに、「中央大学に入ってよかったなと思うところはありますか」という学生生活に関する記者の問いかけもあった。

選手たちは、「1年から4年までの4人部屋で過ごす寮生活は、なかなか経験できないことで、精神的にタフになった」（大久保選手）、「時間の使い方を勉強した4年間でした。サッカーだけでなく、本を読んだり、寮の外に出て自分のためになるものを探したりと、成長させてもらった」（松本選手）、「歴史のある中央大学という名前を背負ってピッチ外でも生活しないといけないし、練習や試合での振る舞いなどを先輩方から学びました」（飯吉選手）などと答えていた。

レッズ入りする大久保選手は「（同じピッチで）去年戦った選手がJ1、J2で活躍しており、大学サッカーの立ち位置が変わってきているのがうれしい。自分もその波に乗って活躍し、それが中大サッカー部や、関東大学サッカーの価値も高めると思う」とも語り、プロデビューが待ちきれない様子だった。

最初は少し硬い表情で受け答えしていた選手たちだったが、内定先チームのユニフォームを身につけると緊張感も解け、カメラマンの注文に笑顔で応じていた。

中央大学サッカー部 6選手の進路

名前	学部	身長／体重	ポジション	進路内定先
大久保智明	経済4	170／62	MF	浦和レッドダイヤモンズ
松本　大輔	経済4	183／79	DF	サガン鳥栖
深澤　大輝	経済4	174／69	DF	東京ヴェルディ
今掛　航貴	経済4	170／62	DF	サガン鳥栖
高窪　健人	文4	178／72	FW	AC長野パルセイロ
飯吉　将通	商4	184／72	GK	南葛SC

Chudai News

WINGの会
「女子学生応援セミナー」

就活…
自己を知り、伝える言葉を持つ

オンラインで開かれた女子学生応援セミナー（写真の一部を画像処理しています）▲

女子学生の就職活動を支援する第26回WINGの会「女子学生応援セミナー」が昨年12月12日、オンラインの会合という形で開催されました。企業、官庁に内定した4年生3人のパネリストによるコロナ禍の就活体験談のほか、セミナー講師としてアフリカ・スーダンからオンラインで参加した国連世界食糧計画（WFP）職員の野副美緒さん（総合政策学部卒）が、社会人としての心得などを学生たちに語りかけました。

参加した「HAKUMON　Chuo」の学生記者２人に、セミナーの感想や就活への考え方、思いなどを綴ってもらいました。

WINGの会

中央大学の卒業生で組織する学員会で唯一の女性支部である「女性白門会」が、1980年代以降、現役の女子学生の就職活動を支援することを目的に発足させた会。女性のキャリア形成が一層多様化する中で、今回が26回目のセミナー開催となった。

講師紹介

野副美緒さん

1998年、中央大学総合政策学部政策科学科卒業。学生時代から緊急援助のボランティアとして活動していた。「ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス」で開発途上国における社会政策学修士号を取得。その後、2003年から国連世界食糧計画（WFP）に勤務。スリランカ、スーダン（現・南スーダン）、ソマリア、パキスタン、ラオス、イエメン、セネガルでの勤務を経て、2020年10月よりスーダン・ハルツームで、育児をしながら復興支援、貧困対策の事業に携わっている。

“野望”を胸に これからの人生を考える

西沢美咲
（総合政策1）

今回のセミナーに参加することで、自分の就職活動や今後の学生生活をどう過ごすかに対しての考え方が変わりました。私はこの春から２年生になります。これまで授業と遊びを両立して何げない日々を送り、就活については深く考えておらず、どのようなものなのかも詳しく知りませんでした。

まず、第１部のパネルディスカッションで先輩の学生３人の話を聞いて、自分の就活についてしっかりと考えようと思いました。パネリストの3人とも就職先の条件、就職して何をやりたいかという就活の軸が明確で、話の中身は今の時期に知ることができて良かったことが多くありました。

一般的な就活のスケジュールやインターンの応募数などを聞き、自分の想像よりも現実は厳しく、企業は水面下で早め早めに動いている場合もあると知り驚きました。自分自身の努力はもちろん、友達やライバルと切磋琢磨しながら、自分を信じて走り続けなくてはいけないこともわかりました。

自分を信じて走り続ける

パネリストの皆さんの意見から、何事も早めに行動することの大切さを感じ、「まだ２年生だからいいや」ではなく、今のうちからできることを始めて、いざ就活というときに良いスタートを切れるように準備を始めたいと思います。先輩方のアドバイスにもあったように、コミュニティーを広げたり、さまざまなイベントに足を運んでみたり、興味のあるインターンに応募してみたりと始められることは多くあります。

新型コロナウイルスの影響で就活もオンライン化しているという話を聞き、私たちのときはどうなっているのか、少し不安な気持ちになりました。しかし、先輩方はこうした状況も味方につけて、説明会の“はしご”や自宅でリラックスして面接を受けるなど、メリットとして捉えていたので、私もそのときの環境に適応して就活に臨みたいと思っています。

第2部の野副美緒さんの話からは、予定や目標を立てることの大切さを学びました。特に印象に残っているのは、野副さんがおっしゃっていた「Vision（展望を持つ）、解決策の提示、伝える言葉を持つ」という言葉です。

私はまだ就活や自分の将来のことを明確には考えていませんでしたが、野副さんの言われた“野望”をもってこれからの人生について考えていこうと思います。そして、タイミングやスケジュール、出会いを大切にして、時には解決策を考え、自分のやりたいことを言葉で伝えることが必要なのだと思いました。セミナーに参加した貴重な経験をこれからの学生生活、自分の就活に生かしていきます。

澤畠彩香
（文3）

就活は
自分らしく生きるための手段

就職活動をしている私にとって今回のセミナーは人生のターニングポイントだったと言えます。前半では企業や官庁に内定した4年生3人による就職活動のリアルな経験談を聞き、後半では国連世界食糧計画（WFP）で活躍されている中大OGの野副美緒さんから、人生経験や価値観についての話を伺いました。

4年生の方々は就活中の悩みや不安について詳細に話してくださいました。印象的だったことは、全員がコロナ禍に直面しつつも、翻弄されることなく、「自分自身を理解した就活をしていたこと」だと思います。

日清食品ホールディングスに内定した高橋佐梨奈さん（文4）は、「自分はとりあえず何事もやってみるタイプの人間であり、自分の貢献が目に見える仕事が合うと考えていた」とおっしゃいました。この話から、自分の性格やモチベーションの源泉を把握することが、就活だけでなく、仕事の目標を考える上でも必要になることが分かります。

10年後にどのような生き方をしていたいか

私はこの話を聞くまで、「社会に出て何をするか」という点を先に考えていたため、自己理解を後回しにしていました。就活は企業に自分という人間を売り込む営業であり、自分を理解することこそスタート地点なのだろうと感じました。

そのような自己理解を極限まで高めた方こそ、国連WFPの野副さんでした。彼女は女優や探検家を目指したり、ルワンダへ視察に行ったりと、行動力のある素敵な女性でした。さまざまなキャリアを築き、多くの困難を乗り越えた彼女が話す一言一句の全てが将来について悩む私たちの世代にとって、核心を突く鋭いものだったと思います。

特に印象的だったことは「2030年までにあなたは何ができているか？」という言葉です。この質問に私は即座に答えることができず、私がしてきた就活は表面的なものでしかなかったことに気付かされました。野副さんは、将来のビジョンや野望を考えることが自己分析であり、就職はそれをかなえるための手段であるとおっしゃいました。この考え方は、コロナ禍で就活をする今の学生にとって最も必要なのではないかと思います。

自分自身を理解し、10年後どのような生き方をしていたいのかについて考えることは決して就活のためだけでなく、私たちの人生を豊かにするために重要なのだと学びました。今回の学びを忘れず、数年後の理想の自分をかなえるために、進路を決めていきたいと思います。

第26回WINGの会「女子学生応援セミナー」概要

〈日時〉
2020.12/12
14:00～16:30

【第1部】 内定者によるパネルディスカッション
「今、知りたい就活のリアル!ー就活経験者が語る本音の60分ー」

〈パネリスト〉

安部未歩子さん
（総合政策学部4年）
内定先＝任天堂

高橋佐梨奈さん
（文学部4年）
内定先＝日清食品ホールディングス

王子琴巴さん
（法学部4年）
内定先＝国土交通省（総合職）

【第2部】 講演会「21世紀のリーダーシップ ～世界を創る大人になる～」
講師：野副美緒さん（国連世界食糧計画＝WFP＝職員）

「強さ」備えた中大の駅伝を来年こそ見たい

「中大スポーツ」新聞部記者
若林拓実（文１）

写真提供／関東学連

第97回東京箱根間往復大学駅伝競走大会が1月2、3日に行われた。経験豊富な上級生と注目のルーキー、吉居大和選手(法1)らを擁した中大は、総合3位以内とシード権獲得を目標に箱根路に挑んだ。しかし、往路19位、復路3位の総合12位となり、9年ぶりのシード権奪還はかなわなかった。

主力投入も予想外だった往路

昨年に続き1区を任された千守倫央選手(商2)は、六郷橋付近で先頭集団から遅れ始め、区間17位の発進。2区も森凪也選手(経済3)が猛追してくる留学生ランナーにペースをかき乱され、18位でたすきをリレーする。3区の吉居選手は序盤で順位を上げたが、残り3キロで余力がなくなった。区間15位となり、吉居選手で上位浮上の目算が狂った。

4区の三須健乃介選手(文4)が区間8位の走りで、流れを変えたかに見えた。しかし、3度目の山登りに挑んだ畝拓夢選手(法4)のペー

スが上がらず、苦しい走りに。実力者を配置し、満を持して臨んだ往路だったが、19位に沈んだ。

4年生の意地、見えた光

前日の往路とは一変し、復路は６区の若林陽大選手(法２)、７区の中澤雄大選手(経済２)の２年生コンビがともに区間5位の好走で流れをつくる。８、９区も堅実に走り、最終10区の川崎新太郎選手(経済４)に、９人分の汗とチームの思いが込められた、たすきが渡った。今回の箱根が競技人生のラストランとなる川崎選手は、区間５位（１時間10分31秒）の力走で、自身の２年前の10区記録を1分24秒も更新。走り終えた表情は、達成感と重圧からの解放感であふれていた。

写真提供／関東学連

往路は駅伝の厳しさを痛感したが、復路に希望が見えた。単独走を強いられ、苦しい状況が続いた中で、５人全員が区間１けたの順位で走破した。復路３位は実に19年ぶりだ。逆境をはねのける精神力、層の厚さを証明し、次につながる復路になったはずだ。復路メンバーの大半が下級生で、来年もチャンスがある。この経験を糧に、来年は主力としてチームをけん引してくれるに違いない。

練習通りの力を出す「強さ」

終始後方でレースを進めた中大は、上位浮上のきっかけをつくれなかった。駅伝には、持ちタイムでは測れない、特有の「流れ」があり、中大はその流れに乗ることができなかった。流れに乗れなければ、優勝候補に挙がったチームでもシード圏外に後退する可能性がある。スタートの１区からの流れが大事になってくるだろう。

10000㍍の上位10人の平均タイムは青学大、早大と比肩する28分38秒。この充実した戦力から、シード校を脅かす「速さ」はあった。しかし、速さを駅伝で発揮し、勝ちきる「強さ」に欠けていたのではないだろうか。

優勝した駒大は２、３区で順位を15位から3位まで押し上げ、流れを一気に変えた。レースの流れを変えられる真のエースの誕生と、強さを培うこと。これが上位進出を狙う課題として見えてきた。速さに、強さを兼ね備えた駅伝チームの選手が躍動する姿を、2022年こそ沿道で目に焼き付けたい。

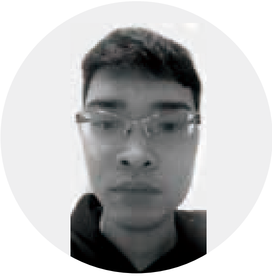
写真提供／関東学連

新井ゼミ2020年度シンポジウム

高齢社会と成年後見・信託
―多摩モデル構築に向けて―
を終えて

法学部
新井誠ゼミ

菊池香名



松田能

2020年12月12日、私たち法学部新井誠ゼミは、外部講師や大学院生らと合同で、成年後見制度に関するシンポジウムを、オンラインを併用して開催しました。このシンポジウムは、ゼミにおいて現在の成年後見制度に関する問題点を探り、それに関する問題を考察し、ならびにその解決案を提案するというものでした。シンポジウムを無事に成功させることができ、2020年度で定年を迎えられる新井先生や、当日お越しいただいた外部の方々からも好評だったのは非常に喜ばしい限りです。簡単ではありますが、新井ゼミ2020年度の活動の記録として報告します。

シンポジウム当日までは苦難の連続でした。まず、新型コロナウイルスの影響で、ゼミ生全員が教室に集まることは不可能でした。発表者と補助役の学生だけが登校し、残りの学生はウェブ上で発表を聞き、質疑応答を行うという、例年と大きく異なった授業にならざるを得なかったのです。例年夏に実施される台湾への海外研修も実施できず、ゼミにおける調査にも大きな影響が出ました。シンポジウムでは、3年生と4年生が別々のグループに分かれ、それぞれ異なったテーマについて発表しました。

高齢社会における成年後見制度重要度を増していく

3年生は成年後見制度の概略とその課題について発表しました。成年後見制度というと、どのような印象を抱くでしょうか。民法を学んだ学生としては、債権法分野と比べるとマイナーな分野だと思う人もいるかもしれません。一方で、重要な制度であると認識してはいますが、手続きが大変だと思う人もいるでしょう。

しかし、成年後見制度は、今後の日本社会において大きく役割を果

成年後見制度について発表するゼミ生たち▲

▲ゼミ生と意見交換する
新井教授、時丸氏、高橋氏、小佐波氏（左より）

シンポジウムで熱心に聴講するゼミ生たち▶

たしうることが期待されている制度です。近年、わが国においては高齢化、ならびに認知症患者の数が増加傾向にあり、そうした高齢者の財産管理や身上保護を目的とした成年後見制度は重要度を増していくでしょう。

３年生は、成年後見制度の概略についてまとめ、その利用促進を図るための成年後見制度利用促進法、成年後見制度における生活・療養看護事務である身上保護の重要性について調査しました。

この制度において、財産管理よりも身上保護の方がより重要であることと、利用促進法が制定されてもなお自治体によって取り組みにばらつきがあること、思った以上に利用が伸び悩んでいる、という事実は、興味深い調査結果で、利用をさらに促進するにはどのような制度が必要なのか、という疑問が生じました。私たち3年生の検討はここまでで、その考察は4年生の発表に譲ることになりました。

市民後見人制度の普及へ「若い人の力が必要」と強調

４年生は、成年後見制度の利用促進を図るための制度として、市民後見人制度について発表しました。市民後見人制度とは、簡潔に言うと市民の中から後見人を選出して、その選ばれた市民後見人に被後見人に対する身上保護等をしてもらおう、という制度です。

具体例として、埼玉県志木市における市民後見人制度、ならびに品川区の例などを調査して、市民後見人制度の現状やその課題、対策案について発表しました。

発表の中で強調したのは、市民後見人制度の実施には、若い力、特に大学生の力が必要となってくる、というものです。実際、大学と協力して市民後見人制度の普及に努めたいという自治体も多いのです。そこで、大学生に市民後見人制度を知ってもらうべく、大学内でフィールド

ワークも含めた講義を実施すべきではないか、という提案をしました。

以上を踏まえて、私たち新井ゼミとして、成年後見制度の利用促進を図るために、市民後見人制度の普及をなすべきである、という提案を発表しました。

コロナ禍での開催に感謝

シンポジウムの基調講演では、司法書士の方や実際に市民後見人制度を業務に取り入れている自治体の担当者を招いて、市民後見人制度の実務の具体的な内容と、その現状について発表していただきました。実際に制度に携わる当事者の生の声や現状について学ぶとともに、ゼミ内で調査した段階ではわからなかった課題を知ることができ、大変有意義な内容となりました。

結びのディスカッションでは、成年後見制度の現状、疑問点について、外部講師の方や新井先生と意見を交わす時間が設けられ、大変貴重な機会となりました。

私たちゼミ生としては、コロナ禍の影響で、もう少し大規模な会場で、一般の方も招待してシンポジウムを開催できなかったことが残念でなりません。しかし、コロナ禍で多くの学生が研究内容を発表する機会を失っている中で、シンポジウムという形で発表することができたことを大変ありがたく思っています。ご多忙の中参加していただいた外部講師の方々に厚く感謝申し上げます。

結びとなりますが、今年度限りでご定年を迎える新井誠先生、1年間ゼミでご指導いただきありがとうございました。コロナ禍により、実際にお目にかかる機会が減ってしまったのは残念ですが、ご指導を受けたことを本当にうれしく思います。先生から教わったことを忘れることなく、残りの大学生活を過ごしていきます。改めて厚く御礼申し上げます。

新井ゼミ2020年度シンポジウム
「高齢社会と成年後見・信託—多摩モデル構築に向けて—」

日時：2020年12月12日午後１時～5時半
協賛：公益財団法人トラスト未来フォーラム

【第１部】中央大学法学部ゼミ生発表
【第２部】中央大学大学院法学研究科ゼミ生発表
【第３部】基調講演
小佐波幹雄氏（品川成年後見センター所長）
高橋弘氏（司法書士、日本成年後見法学会常任理事）
時丸和好氏（トラスト未来フォーラム副理事長）
【第４部】パネルディスカッション

☆新井誠ゼミ・シンポジウム参加者

李 俊炯（法学部４年）
岡本 紗喜子（法学部４年）
奥田 良介（法学部４年）
坂上 真樹（法学部４年）
佐竹 大虎（法学部４年）
西崎 淳也（法学部４年）
薄 文（法学部４年）
益子 優輝（法学部４年）
伊藤 達也（法学部3年）
岩崎 蘭（法学部3年）
大久保 遼平（法学部3年）
菊池 香名（法学部3年）
君島 朋華（法学部3年）
竹内 夏樹（法学部3年）
長谷川 彩夏（法学部3年）
星 遼河（法学部3年）
松田 能（法学部3年）
松本 侑樹（法学部3年）
水谷 友祐（法学部3年）